

## 第三者意見

私は、電子部品メーカーにおいて生産技術開発、大学においては工作機械と加工技術の研究を行ってきました。この間、T H K 殿の商品を利用し、新しい機械要素を開発していただく立場でT H K 殿とのお付き合いを続けてきました。ユーザーの一人として、かねてからT H K 殿の実行力と責任感には感心しておりましたので、この度CSRレポートに第三者として意見を述べさせていただくことになり、たいへん光栄に思います。大学におりますと、ビジネス用語には疎くなりますので、まずCSR (Corporate Social Responsibility) とは「企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任を持つことである」ということを確認し、本レポートに対する私の意見を以下にまとめさせていただきます。

### (1) 継続

日本の製造業は、東日本大震災やタイの洪水等によって大きな影響を受けました。その結果、工場の喪失、エネルギー喪失、極限状態での意志決定、情報ネットワークやサプライチェーンの寸断等のハードとソフトの問題が、複合的かつ大規模に起こることが現実であることを知るようになりました。この問題に対して、寺町社長が巻頭において、BCP (Business Continuity Plan) に関する現在の対策 (本社機能の分散やサプライチェーンの検証) を要約されています。関連して、17ページに具体的な方法を述べられています。状況が落ち着いた今、こういった取り組みを続けることは、たいへん重要であると考えます。

### (2) 人

顧客、顧客満足、株主、サプライヤー、従業員といったレポート項目でわかりやすく整理されています。特に、顧客満足という点を項目化されており、顧客との関係を築くことに高い意識を持っておられると感じま

した。また、従業員とともにという項目は、成長支援、多様な働き方、地域社会との連携といった多様な視点で書かれています。内容についても、新たなフィールドへのチャレンジのための公募制、障がい者雇用とアビリンピックへの参加、地域連携、グローバルエンジニアミーティング等の様々な活動をされており、従業員の方々の視野と可能性を広げようとしています。

### (3) 地域

6ページの連結従業員数推移を拝見すると、2007年から現在に至るまでアジアにおける従業員数が2倍以上になっており、売上高もこれと連動して急速に伸びております。今後は、アジアの様々な地域でT H K 殿の貢献がさらに重要になると予想されます。

### (4) 環境

環境負荷に対する全体像をINPUTとOUTPUTというフォームで明示されており、個々の取り組みからも高い意識を持っておられると感じます。全社での取り組みではないことわり書がありましたが、グリーンカーテンはユニークです。今後さまざまな試行の中から、新しいアイデアが出てくることを期待します。

T H K 殿は世界最高品質、世界同一品質という目標を掲げられています。取り巻く状況の困難に立ち向かいながら目標を達成するプロセスの中で、人と組織が社会と連携しながら成長する。それがCSRであるということ、意見を考えながら勉強させていただきました。このような機会を与えていただき有難うございました。

京都大学  
大学院工学研究科 マイクロエンジニアリング専攻 精密計測加工学分野  
教授・工学博士 松原 厚様

昭和60年京都大学工学部機械工学科卒業、同年株式会社村田製作所入社、平成2年9月同社退社、平成3年3月京都工芸繊維大学大学院工学研究科博士前期課程機械システム工学専攻修了、平成4年4月本学精密工学専攻助手、平成9年11月京都大学博士(工学)の学位を取得、平成9年10月～平成10年9月米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校産業機械学科客員研究員、平成12年2月同助教授、平成17年3月1日より同教授。知能機械講座精密計測加工論分野担当。  
主な研究分野は機械加工プロセスの計測と制御、精密位置決め。



## 編集後記

第6号のCSRレポートを無事発行することができました。T H K 製品が皆様のまわりでどのようにお役に立っているかを検証するために、特集ページでは今後起こるであろうと予測される大地震への備えの大事さと地震による被害を抑えるために免震装置を採用されたお客様のコメントを紹介しました。皆様からは免震装置を導入したことでお金には代えられない安心感を得られたとのコメントをいただき嬉しく思っています。

また、東日本大震災発生後に当社が行った節電への取り組みとボランティア活動に従事した社員の声を当社のCSRへの姿勢として紹介しました。

経年で紹介しているテーマではガバナンス・コンプライアンス体制、人材活用や地域社会に積極的に関わる姿勢、地球温暖化防止に向けた取り

組みをT H K とご関係のある方々の声を最大限取り入れました。

今後もCSR活動を全社一丸となり積極的に推進し、その結果を皆様にお伝えしていく所存です。つきましては、今回のレポートをお読みになった皆様方がどのような感想をお持ちになったのかご意見を賜りたく存じます。皆様方の貴重なご意見は今後のCSR活動やレポート作成の参考にさせていただきます。ご高覧のうえ、忌憚のないご意見・ご感想を同封のアンケート用紙にてお寄せいただければ幸いです。

CSRプロジェクト事務局  
(次回発行予定2013年9月)